第１章　はじめに

「熟議 2014 in 兵庫大学」報告書の刊行にあたって

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 学長　三浦 隆則

「熟議 2014 in 兵庫大学」は、本学の熟議としては３回目の開催になります。第１回（2012 年）は、文部科学省との共催で、「地域社会における生涯学習社会の構築と大学・自治体の役割」をテーマとして行いました。「熟慮」して「議論」するという「熟議」の手法により、異なる世代の者が集い、教え合い、学び合う場となりました。

第１回の熟議の成果を振り返り、熟議の推進役である本学の「熟議プロジェクトチーム」は、熟議を１回で終わらせるのではなく、継続させたいとの結論にいたりました。新たに３年間の計画で進めることとし、3 年間のテーマとして「加古川地域の未来について話をしよう！」が定められました。3 年計画の１年目である第２回（2013 年）は、加古川地域の現状と課題を知り、今後進むべき道筋について知ることとしました。地域のニーズを知ることとともに、「強み」と「弱み」を解析する形で進めました。

さて、3 回目となる「熟議 2014 in 兵庫大学」は、加古川市との共催で実施できることになりました。共催をご快諾いただいた加古川市に厚くお礼申し上げます。

「熟議」のテーマは、引き続き「加古川地域の未来について話をしよう！」ですが、サブ・テーマを「①加古川地域の防災・減災、②加古川地域の防犯」と定めて、熟議への参加者を募りました。参加者に「熟慮」していただくためのやりとり（アンケート）を経て、熟議プロジェクトでは、今年の「議論」のテーマは、防災・減災については、「安全･危険の判断は誰がするべきか」、防犯については、「防犯カメラは必要か」としました。

地元高校生が 35 名、本学大学生が 33 名（ワークショップ参加 19 名、ファシリテーター14 名）参加し、異なる世代の人と交流、議論しました。また、今回は、ワークショップ終了後に、全員が集まり代表者討論会を行い、情報共有の場としました。こうして、熟議を無事終えましたが、熟議の成果につきましては、本報告書からお読み取りいただきたく思います。多くの学びが得られるものと確信しております。

最後に、本熟議に参加していただいたみなさま、ファシリテーターとして事前研修に励み、当日のワークショップ運営にご尽力いただいた学生諸君、熟議実施にいたるまでの緻密かつ論議を尽くした準備と精細な報告書作成にご尽力いただいた熟議プロジェクトチームのみなさま、および関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。

「熟議」に期待すること

加古川市長　岡田 康裕

このたびの「熟議 2014in 兵庫大学」へは、加古川市も共催という形で携わらせていただきました。高齢化がますます進む中、厳しい経済財政状況を乗り越えていくためには、政治や行政への更なる市民参画が不可欠であり、特に若い世代の皆さんが、中長期的な視点でもって関わっていただくことが大切です。

この熟議は、様々な立場・幅広い年代の方々が同じテーブルで議論を行うことが特徴です。参加された皆さんが自分たちのまちのことを真剣に考えてくださることに、この地域の一首長として本当に頼もしく感じました。特に高校生の皆さんが、ワークショップや討論会を通して、次第に生き生きとしてくる姿がとても頼もしく感じました。普段の学校生活にはない貴重な体験となったのではないでしょうか。

さて、今回は「防災・減災」と「防犯」の観点から「安心・安全」について議論していただきました。災害や犯罪に対する備えは、地域住民の誰もが必要とするものです。自分の安全は自分で守る「自助」、地域住民で支えあう「共助」、行政等が行う「公助」のそれぞれの役割が大切だという意見が多数ありました。私も、どれか一つが欠けては、安心・安全なまちづくりの実現は難しいと思っています。住民一人ひとり・地域・行政がそれぞれの役割を果たし、互いが連携し補い合うことが大切です。

また、誰もがこの加古川地域を誇りに思えるようになるには、行政だけではなく、地域に暮らす皆さんの主体的な活動が不可欠です。まちづくりの主役は皆さんです。加古川地域の未来について、熟慮し、議論する。その過程で得られたご意見やご提案を見ましても、熟議は加古川地域の魅力を更に高めていくための非常に有効な手法であると感じました。今後も引き続き、このような機会を住民の皆さんと一緒にまちづくりを進める場として活用できたら、この地域はより素晴らしいまちになることでしょう。

最後になりましたが、熱心にご議論いただいた皆さまへ心から感謝申しあげますとともに、これからも加古川地域の発展に向けて、積極的な参画をお願いいたします。